

○処方適正化アプローチ事業

福岡県内での指針の活用実績を得るため、協力医療機関を選定し、東大病院で実施している「薬剤師による持参薬評価テンプレートを用いたスクリーニング」を導入して、処方適正化アプローチを実施。

【平成30年度】

6つの協力医療機関(一般病床)に新規入院した65歳以上の患者を対象に実施。

【令和元年度】

入院期間が長い8つの協力医療機関(回復期リハビリテーション病棟又は地域包括ケア病棟)に新規入院した65歳以上の患者を対象に実施。

【令和2年度】

東大病院のテンプレートを用いた処方適正化が必要な患者のスクリーニングについて、協力医療機関以外の施設でも活用してもらえよう、これまでの事業を通じて得られた結果や実施方法等について周知を図っていく。

○お薬手帳の活用促進事業

服薬情報の一元化を図り、お薬手帳の正しい活用を促進するため、75歳以上の重複服薬者に対して、リーフレット及びお薬手帳ホルダーを送付し、その効果を解析。

【平成30年度】

一月に30日以上同一の医薬品の処方を受けている重複服薬者10,344名に対し、リーフレット及びお薬手帳ホルダーを送付。

【令和元年度】

- ・平成30年度の送付対象者に係る効果解析(抽出条件該当者の増減、処方変化、お薬手帳持参状況の変化等)。
- ・一月に30日以上同一成分の医薬品の処方を受けている重複服薬者4,225名に対し、リーフレット及びお薬手帳ホルダーを送付。

【令和2年度】

平成30年度、令和元年度の送付対象者に係る効果解析を行うとともに、その結果を踏まえ、抽出条件や抽出期間を検討して、新たな対象者に送付を行う。



福岡県における取組み②

○研修会の開催（R1～）

指針の普及・浸透を図るため、医師、薬剤師、看護師等の多職種を対象に、処方適正化アプローチの取組事例等の講演を実施。

- 処方適正化アプローチの取組事例
- 国や県の動向、取組
- ポリファーマシー対策のための指針
- 高齢者への適切な薬物療法

【令和元年度】

9月6日開催、参加者223名

【令和2年度】

令和元年度研修会の参加者へのアンケート結果を踏まえ、以下の要素を満たすことができる研修会を開催予定。

- 多職種が参加できる
- 具体例を多く取り上げる
- 様々な立場からみたポリファーマシーに対する考え方の共有

日時：11月14日（土）14：30～

場所：アクロス福岡 イベントホール

○患者啓発事業（R1～）

医薬品の適正使用には患者とその家族の理解と協力、医療関係者からの丁寧な説明と情報提供が必要不可欠であるため、ポリファーマシーに関する啓発を実施。

【令和元年度】

- お薬手帳及びポリファーマシーに関する啓発事業
薬剤師が、来局した65歳以上の男女に対し、服薬指導時等にお薬手帳及びポリファーマシーに関する質問をし、それに基づいた啓発活動を行った。（10月17日～23日）

- 啓発用チラシ、シール
一定数以上の医薬品を処方されている65歳以上の患者の来局時に、ポリファーマシーに関する説明を行うための啓発チラシ、及び、お薬手帳に貼付してもらうことで意識付けを行うことが啓発用シールを作成し、薬局へ配布。



【令和2年度】

薬局窓口や薬と健康フェアなどにおいて啓発資材を配布し、患者等に対する啓発を実施していく。

福岡県における今後の取組み

	令和元年度(2019年度)				令和2年度(2020年度)			
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
協議会		● 第1回		● 第2回		● 第1回		● 第2回
処方適正化アプローチ実施事業		準備・実施・解析						
お薬手帳活用促進事業		対象者選定	● 配布	解析		対象者選定	● 配布	解析
研修会		● 第1回					● 第1回	
啓発事業		内容検討・配布準備		● 啓発			● 啓発	
				● 作成・配布				